

子育て目線で 声を届ける

芦屋市議会議員

たかおか知子^{ともこ} 市政報告

市政に影響を及ぼしてきたこと

第20期芦屋市議会議員として選ばれて無我夢中で務めてきましたが、思いがけないことばかりが起こった3年半でした。世界中を混乱させた新型コロナウイルスの感染拡大は社会情勢や国民の意識を大きく変化させ、市政の運営にもさまざまな変化をもたらしました。市民の皆様の不安と動揺は我々議員の活動にも大きく影響し、その活動の目的や方法を見直し進化させるきっかけとなりました。

想定外の事といえば、JR芦屋駅南側の再開発計画がストップし、前期に決定していた内容を大幅に軌道修正されたことは驚くべき展開でした。多くの議員は予算が膨らみすぎている、その一点だけをもって計画に反対し、結果として2年ものあいだ予算執行の遅滞を余儀なくされました。市長から二度にわたり再議が行われましたが、市政の歴史の中で一度も議決のやり直しを求められなかったことを振り返ると、行政にとってはよほどの事態でした。結果としてこの再議がとおり採決のやり直しが行われましたが、予算は否決されたままで、状況は変わりませんでした。長期的に駅前再開発が止まっているあいだに、世界情勢のうつりかわりと経済状況の変化が、結果的に駅前再開発にかかる芦屋市の市税の負担増を招き、行政サービスの提供を遅れさせた市議会の対応が正しかったとは思えません。行政の努力により予算は通りましたが、決して小さない市政への影響と、未だ解消されない交通課題によって市民の皆様を危険にさらしていることについて、反対した議員から謝罪と丁寧な説明があっただけで済むべきと考えますが、自分の言葉ではっきりと説明ができていない議員が多いように感じて、残念でなりません。しかし、私は反対意見に押されることなく断固として、この再開発事業が進むことを信じ、諦めることなく議会の合意を得られるよう努めてきました。ようやく実質的な予算が動き出し、駅前整備が行われるようになったことを嬉しく思います。



ご意見をお聞かせください

引き続き一般質問や委員会など、市民サービス向上のため、皆様に代わり行政へ主張して参ります。お困りのことがありましたら、是非ご意見をたかおか知子にお聞かせください。市民の皆様のお考えを、教えていただき、もっとたくさん芦屋市のことを勉強いたします。



芦屋市議会、前代未聞の大逆転劇！



数の論理で議会運営を推し進めることは、時として誤った判断を結果として残すことになると思われた議案がありました。令和3年10月8日の「大塚のぶお議員に対する問責決議」が賛成多数で否決されたことです。ハラスメント問題は非常にデリケートでその扱いは慎重にされるべきであり、議員という立場からも個人情報の取り扱いには特に神経を使う部分です。しかしこれを怠っていた議員がいました。令和2年6月に報道がなされた「市職員によるハラスメント事案」は、この議員が行った一般質問が発議です。当事者の職員8人は、誰一人として当該議員に合意していたものはいませんでした。公の場で事実とは異なる内容を伝えられた職員は、尊厳を著しく傷つけられていました。また、事実関係を確認しないまま、自らが記者会見を行い職員を代弁する形で市民の皆様へ誤った情報を広く伝えていました。当事者の職員らは、自分たちの思いとは別のことを、議員により主張され続けたことで悔しい思いをしてこられたわけです。当該議員がようやく自分の落ち度を認めて謝罪するまでに2年の歳月がかかりました。その後令和4年3月22日に、市議会は再発防止の決議文を可決しました。議会全体として誤った議員の行動を容認してしまった経緯を改めて見直し、自省をするためにも改めて問責決議を行い、本人の口から公に経緯を説明してほしいのですが、残念ながら当該議員は同年5月31日をもって突然の辞職をし、市議会は自戒のチャンスを失いました。当該議員は過去に自分の問責決議が話し合われた中で、事実を述べずに問題をすり替える弁明を繰り返していましたが、もっと早い時期に自らが謝罪し、職員及び市議会の信頼を大きく損なったことを認めていれば、問責決議が否決されることも、長きに渡り芦屋市が名誉を汚されることもなかったのです。

3月

市政報告会を開催しました

令和4年3月26日にたかおか知子をはじめ個別の市政報告会を行いました。市政と議会について、勝手ながら私からの見え方で思いを述べさせていただきました。今後は市民の皆様のご意見をどうしたらかたちにすることが出来るかについて、ゲストのお二人とトークを交えながらご意見をうかがえたのは大変勉強になりました。市民の皆様と市議会議員との距離をより身近に感じてもらえる良い機会となりました。



令和4年3月26日

6月

令和4年第2回定例会一般質問4項目！

● JR芦屋駅南地区まちづくりに期待する市民の声

縮減案で削られてしまった予算ですが、バリアフリー、エスカレーター、駐輪場、公益施設など市民の皆様が納得のいくものになるよう、安心安全であると同時に利便性の質が上がることにも注目し期待しています。

● 芦屋市屋外広告物条例が影響を及ぼしている市民へのしわ寄せ

規制をかける目的は安全対策ですが、本来お商売をされている方にとっての看板とは、目印としての大切な役目もあります。条例不適合とされる看板の判断基準に差が生じないように個別相談を丁寧に行ってください。

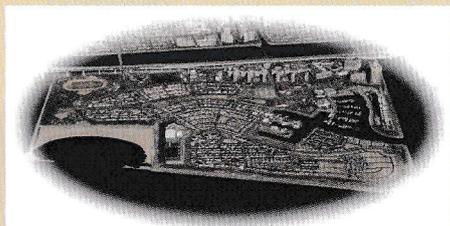
● 未然に防ぐ！虫対策とカラス対策

カラス対策というと撃退の方法ばかりが取り上げられますが、撃退グッズは根本の解決にはなっていません。大事なのはカラスの生態や特性をよく知ることです。虫も成長過程を知ることによって防ぐ対策ができます。

● 南護岸でのマナーの悪いこれまでの迷惑行為について

釣り人のマナーの悪さが目立ち迷惑行為が後を立たず、安全安心が損なわれ続けた経緯があります。護岸開放の前にマナー啓発を検討し、迷惑行為が再度数多く発生した場合の対処も予め決めておく必要があります。

●潮芦屋（南芦屋浜地区）について、利用者の目線にあったまちづくり



25周年を迎える潮芦屋（南芦屋浜地区）

南芦屋浜地区3町の戸建て分譲が始まった平成15年から令和4年までの20年弱、山手町と岩園町で約500人以上の人口増となり、さらに南芦屋浜地区にある海洋町と南浜町が1000人以上、涼風町が1500人以上の人口が増えています。少子高齢化が進む昨今には珍しく20年間人口が増え続けている地域なのです。しかし北側の人口増地域周辺にあった三条小学校は廃校となり、子どもたちは離れた山手小学校に通うことになりました。

そして南芦屋浜地区は、子育て世帯が多く移住してきているのに小学校の新設計画がなくなったことで潮見小学校の校区は、広大になり児童も過密状態です。しかし、他の地区にお住まいのほとんどの方がこのことをご存じないことに私は驚きました。ここは住環境がよく自然に恵まれ、主要都市への車のアクセスも良く子育てしやすい街です。老後の生活までも思い描ける将来性のある街として、移住者が増え続けている地域です。南芦屋浜地区の順調な人口増もあいまって市の税収は右肩上がりです。一年間の市税を20年前と比較してみると約20億も差がつく増収でした。しかし、未だに郵便局も交番の新設もなされておらず、郵便ポストのひとも増やしてもらえていません。バス便は2時間に1本と公共交通機関の機動力もありません。歴史が浅くまだ若い南芦屋浜地区に、より良い予算配分を行い、住民目線のサービスを拡充して地域力を上げることは、安定した芦屋市の未来につながります。南芦屋浜がまだまだ未熟な地域だからこそ、成熟した街の魅力に積極的に加わり、自分たちの住む場所だけではなく芦屋市全体を“わがまち”として若い力で町と町を結ぶ繋がりをつくることができます。同時に歴史ある芦屋の魅力を底上げするためにも、税収を支える新たな地域の魅力を継続して、南芦屋浜地区を地域ブランディングすることです。より積極的な住民サービスの還元によってそれが実現し、結果的に市内のすべての人へ新しい形の地域愛を育てることに繋がっていきます。“ふるさと”である芦屋として、子ども世代から孫世代と3世代が仲良く暮らせる芦屋のまちを増やしたいと願って今後のまちづくり計画に期待しています。

●交通事故を防ぐための自動車への注意喚起

主に通学路の交通安全に関する取り組みについて述べました。もちろん児童には自ら身を守る安全の意識を持たせることが大事ですが、児童はトライアングルの中心にいてそれを囲む、「ドライバーへの注意喚起」「見守り実施」「通学路の見直し」、この3つの安全対策が必要です。中でも自動車に向けての注意喚起が市内では、少ないように感じていました。「スピード落とせ」「子ども飛び出し」「住宅街につき静かに走行するよう注意喚起する」など、歩行者が行き来する住宅街であることをもっと車に知らせる看板やサインの設置が必要です。

●地区防災計画に対する公助のあり方

「住民の皆さんで地区防災計画を作いませんか？」といきなり言われても公助である市は「何もしてくれない！」と思われる方も多いのではないのでしょうか。地域の皆様も、地区の特性を踏まえた防災計画の必要性は感じておられるでしょう。一方で職員のほうも、町に合った防災計画をそこに住む地域の皆さんの手で構築できるよう、防災活動への補助金の交付や防災士を育てるための講座の実施、防災の専門家の派遣制度等の支援策を拡充していますが、なかなか周知されていないようです。お互いに相手から手を差し伸べられるのを待っているだけでは一向に進みません。災害への備えは待ったなしです。まずは一人一人のお声掛けからも始められます。地域の皆様と市が連携して作る、住民のための地区防災ガイドブックを一緒につくりましょう！



一般質問録画

HPで解説



令和3年度の決算では、一般会計の実質収支が35億1200万円となり、平成以降で最大の黒字でした。ただ、財政運営とは単にお金が余ったことを示せばよいというものではなく、市民が困った時はいつでも適正なサービスを受けられるという、公共と市民が互いを信頼して結ばれる安心感のある都市を実現したいものです。今後の予算編成に関して言えば、他市よりも平均収入・平均所得が1.3倍という当市の特性を踏まえ、時には将来有望な投資事業への予算配分も視野に入れること、また市民サービスの転換や廃止・早めの見直し等、職員からの新たな独自支援の提案を積極的に受け入れることのできる組織づくりを目指してほしいとお願いし、賛成の討論と致しました。



令和4年10月7日(30:30~)



たかおか知子注目の新規事業4つ！

●パークフルの公園利用申請システム

道路・公園課は「公園レンタル・オンラインシステム」を実装しました。行為届出・行為許可・占用許可がオンライン申請できるようになりました。イベント等の申請の際は是非ご利用ください。ちょっとしたことでも市民サービスに反映するための挑戦！こういう積み重ねが大切ですね。< [芦屋市独自支援事業](#) >

●保育士等処遇改善臨時特例事業

「病児・病後児保育ルームひだまり」を開始し、病気やけがにより保育所等の利用ができない児童を保護者に代わって一時的に保育し、より安心して仕事と子育ての両立ができるようサポートしています。
事業費 1,930万7千円<国 250万1千円 県 250万1千円 その他 50万2千円 一般財源 1,380万3千円>

●市立精道こども園において病児保育事業

市内で事業を実施する保育所等（保育所・認定こども園・小規模保育事業所・幼稚園）で働く保育士の処遇を改善するための助成事業です。令和4年2月から保育士等の収入を3%程度(月額9,000円)引き上げることができるようになりました。※令和4年10月からは施設型給付費等の加算として処遇改善を継続します。
事業費 693万6千円<財源：国 693万6千円>

●がん患者アピアランスサポート事業

がん治療による外見（アピアランス）変化に対する不安の軽減やよりよい療養生活をサポートするため医療用ウィッグや乳房補正具の購入費用の助成を開始し、令和4年度も引き続き行われます。
事業費 44万8千円<財源：県 22万3千円 一般財源 22万5千円>



『たかおか知子ホームページは
随時更新しています!!』

たかおか知子

検索



『SNSで情報を発信しています!!』
<https://linktr.ee/takaoka.tomoko>



etc

芦屋市議会議員 孝岡知子（たかおか ともこ）
居住地：南芦屋浜地区（潮芦屋）涼風町
事務所：清水町
TEL：070-4332-6414
E-mail：mail@takaoka-tomoko.me

発行：あしやしみんのこえ 発行年月日 2022.11